

独立行政法人 地域医療機能推進機構

JCHO
仙台病院

広報誌

地域の皆様と共に。

JCHO SENDAI

ジェイコー
センダイ



2026

7 vol.
03

ご自由にお持ち下さい

特集

FEATURE

外

科



JCHO 仙台病院の魅力を
各号の特集でお伝えします

「笑顔」と「安心」を お届けする外科です



ドナーの方から採取した腎臓を確認しています

はじめに

当院外科は、大きな2本の柱を有しています。それは「消化器外科」と「腎移植外科」という2つの柱です。消化器外科に求められる機敏さと、移植医療に求められる緻密さを融合させ、患者さんに「笑顔」と「安心」と、そして「思いやり」をお届けできるよう診療に当たっています。

消化器外科

消化器外科では主にがん診療を行っています。手術療法のみならず、抗がん剤治療や緩和医療に至るまで、全人的な医療を行っています。「私たちが診ているのは“病氣”ではなく、病気をかかえた“患者さん”である」という信念をもち日々診療にあたっています。



関口副院長(中央左)を先頭に、私たちが外科診療を担当しています。

Profile

移植外科医長 阿佐美 健吾 Kengo Asami (左端です)

群馬県出身。
2003年東北大学を卒業。旧・仙台社会保険病院で外科研修を行ったのち、東北大学大学院医学系研究科に進み、膵島移植の研究で医学博士を取得。その後宮城県、青森県の病院で外科勤務を行い、2019年より現職。
日本臨床腎移植学会腎移植専門医、日本移植学会認定医、日本消化器外科学会消化器外科専門医。
モットーは「病気に厳しく、患者さんに優しく」。



ロボット(ダビンチ)手術です。右端のコンソールと呼ばれるコックピットでロボットの操作をします

腎移植外科

当科では一九七六年から腎移植手術を行っています。ドナーさんの思いが詰まった腎臓を、慢性腎臓病の患者さんに心を込めて移植しています。移植を受けられた患者さんが、尊い腎臓とともに歩みながら社会復帰していく姿をみることは、移植医としてこの上ない喜びです。

JCHO 仙台病院では一九七六年の腎移植手術開始以降、二〇二五年十月に手術件数一、〇〇〇件を達成しました。これは東北地方ではトップの実績です。移植医療のさらなる発展のために、当科で蓄積した様々な知見を、ここの仙台から世界に向けて発信していきたいと考えています。

おわりに

JCHO 仙台病院外科では、三六五日いつでも診療に対応できる体制を整えています。地域の皆さまが安心して暮らせますように、そして笑顔あふれる毎日を送れますように、皆さまに寄り添った外科診療を行っていききたいと考えています。

外科術前リハビリ

～プレリハビリテーション～

プレリハビリテーションとは、手術後の体力や筋力低下に備えて、事前に運動を行い、筋力や持久力を高めて、手術後の経過を良好なものとする事を目的に行う取り組みです。

プレリハビリテーションの運動療法プログラム

①有酸素運動(ウォーキング等)

②呼吸運動(腹式呼吸)

③筋力強化運動(スクワット)

【強度】
ややきつと感じる程度

【頻度】
週5回以上

【時間】
1日30～60分程度



【強度】しっかり息を吸い込む程度まで
【頻度】1日3回
【時間】5～10回×1～3セット

【強度】
ややきつと感じる程度まで

【頻度】
週2～3回

【時間】
10～20回×1～3セット



※入院前から可能な運動を行って早く回復するように準備しましょう

腸活のススメ～食事は腸活の第一歩～



腸活とは？

毎日の食事や生活習慣を見直して、腸内フローラ(腸内細菌のバランス)を整える活動のことです。腸内には約100兆個の細菌が存在し、「善玉菌」「悪玉菌」「日和見菌」があり、健康状態に大きく影響します。理想的なバランスは、善玉菌2：悪玉菌1：日和見菌7とされています。(日和見菌は優勢な方に味方します)

腸活して期待できる効果とは？

・免疫力の向上 ・消化や排泄(下痢や便秘)の改善 ・老化防止や美容 ・心身の健康サポート

善玉菌を増やす食事の工夫点は？

1. いろいろな食品を
バランス良く、
規則正しく食べる

2. **発酵食品**を摂って、
善玉菌を腸に届ける(プロバイオティクス)

ヨーグルト 乳酸菌飲料 納豆 味噌 ぬか漬 チーズ

3. 善玉菌を増やすために、
善玉菌のエサを摂取する(プレバイオティクス)

水溶性食物繊維

海藻類 野菜類

オリゴ糖

玉ねぎ バナナ 蜂蜜

※食事療法を行っている方は、担当医師または管理栄養士の指示が優先になります。(避けた方がよい食材となる場合もあります。)

レシピエント移植コーディネーターに聞く

人生に寄り添う 移植医療の架け橋

レシピエント移植コーディネーター 百々 菜津子さん



当院のレシピエント移植コーディネーターです(左端より 齋藤雅恵さん、百々菜津子さん、伊藤智恵子さん)

腎臓移植は、患者さんにとって人生の大きな転機となる治療です。期待だけではなく、不安や迷いを抱えながら移植医療に向き合われる方も少なくありません。

レシピエント移植コーディネーターは、腎臓移植を受ける患者さんやご家族に寄り添い、移植前から移植後まで継続して支援を行っています。

移植に向けた準備や検査の調整、入院支援、多職種との連携、退院後の生活支援など、その役割は多岐にわたります。

ります。医師・看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなど、多くの職種と協力しながら、患者さんが安心して治療に臨める環境づくりを大切にしています。

当院には現在3名のレシピエント移植コーディネーターが在籍しており、その中で私は移植外来を担当しています。歴代のコーディネーターから受け継がれてきた想いや支援の積み重ねを大切にしながら、私は4代目として患者さんと向き合っています。



移植医療は、治療だけではなく、その後の人生や生活にも深く関わる医療です。患者さん一人ひとりの想いに寄り添い、「その人らしく生きること」を支えられる存在でありたいと思っています。

これからも地域の皆さまに安心していただける移植医療を目指し、患者さんとともに歩んでいきます。

外科・移植外科

当院の外科では、胃がん、大腸がん、膵がん、胆嚢がんといった消化器疾患から甲状腺がん、そして鼠径ヘルニアや胆石症などの良性疾患まで幅広く診療に当たっています。最新のエビデンスに基づいて、外科手術はもとより、抗がん剤治療から緩和医療に至るまで患者さんの状態に合わせて最適な診療を行っています。また透析患者さんが多いことも当科の特徴であり、豊富な経験を生かして質の高い医療を提供しています。

さらに東北大学病院・総合外科とも連携をとりながら腎移植手術（生体移植、脳死移植）にも積極的に取り組んでおり、東北地方のみならず日本を代表する腎移植実施病院となっています。

当科での診療実績については全国の主要学会にて毎年欠

かさず報告しています。ベッドサイドからのみではなく、「データ解析から見える診療」、「施設との交流から築かれる診療」も大切にすることで厚みのある診療を行っています。

私たちは「我々がJCHO」の気概を忘れず、「さすがはJCHO」と感じて頂けるような外科を目指しています。



新進気鋭の佐藤医師、学会発表中です



筆者（阿佐美）、講演しています



連携医のご紹介



後列左から：透析センター長・鈴木舞 先生 副院長・山下慎一 先生
前列左から：院長・中川晴夫 先生 名誉院長・鈴木康義 先生
副院長・浪間孝重 先生



泉中央病院 〈泌尿器科〉

当院は昭和58年、「専門医として地域社会に貢献する」という理念のもとに開院した、泌尿器科を中心とする34床の専門病院です。開院当初は2名の泌尿器科医で診療を開始しましたが、現在は泌尿器科医4名、腎臓内科医1名の計5名の医師が、泌尿器科疾患および腎不全に対する血液浄化療法を中心とした診療を行っています。

近年、わが国では超高齢社会の進展に伴い、前立腺癌・前立腺肥大症、膀胱癌、排尿障害、尿路結石などの泌尿器科疾患が増加しています。当院では、これらの疾患に対し、膀胱癌・前立腺疾患・尿路結石に対する経尿道的手術や体外衝撃波結石破砕術（ESWL）など、患者さんの負担軽減を目的とした低侵襲治療を積極的に実施しています。

腎不全に対しては、外来通院を中心とした血液透析に加え、自宅で行う腹膜透析にも対応しています。また、腹膜透析と血液透析を組み合わせたハイブリッド透析など、患者さんの病態や生活スタイルに応じた最適な治療を提案しています。

JCHO仙台病院には、泌尿器科・腎センターをはじめ各診療科の先生方を通じて日頃より多大なご支援をいただいております。一方で、術後の経過観察が必要な患者さんや外来診療で対応可能な患者さんを地域連携医療機関として受け入れるなど、相互に連携を図っています。今後も地域医療連携をさらに深め、質の高い医療の提供に努めてまいります。

泉中央病院

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈4丁目16-14 TEL.022-373-5056

◆無料駐車場あり

<https://izumi-chuo.com>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00	●	●	●	●	●	●	
14:00~17:30	●	●	●		●		

休診日 日曜日・祝日



